学習内容報告書 フォーマット　1

学校名	平川市立竹館小学校
授業者	千葉　光帆

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

2.　単元名

いきいき　わたしたちのふるさと

3.　学年

３学年

4.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

5.　単元の概要

①学区クリーン作戦を通して地球環境の劣化について考えさせる。雪解けに伴い道ばたに散見されるゴミに目を向けさせ、プラスチックゴミの問題について気づかせる。
②給食の献立から「海の恵み」を発見させる。５月から１０月まで、毎月３回程度、給食の献立から「海で採れるもの」（海産物）を探し出して記録する活動を行う。私たちが毎日の食事を通して、実に多くの海の恵みを享受している事実に気づかせるとともに、私たちが海上交通や運搬をも含めて海洋に依存した生活を送っている実態を把握させる。
③海産物の生産過程について探究させる。海産物がどのように生産され、私たちの食卓に届くのかを学ばせる。また、市場のしくみについて学習し、自分たちに身近なリンゴや水稲栽培との相違点を確認させる。
④持続可能な海洋環境について考察させ、学習の成果を発表させる。大気中のCO_2の増加が、気候変動や海水面の上昇をもたらし、地球上の生態系や人々の暮らしに深刻な影響を及ぼしている現実を理解させる。そして、どのように問題を解決するべきかを考えさせる。学習の成果をノートへまとめ、学校参観日に発表会を行い、保護者や地域の方々への啓蒙を図る。

6.　単元設定の理由・ねらい

本校は山間部に位置するため、残念ながら海との接点がほとんどない。そこで、子供たちへ海洋を多面的に理解させる機会を創出することで、なかなか目にできない海が生活に密着している事実、同時に海が抱えているプラスチックゴミ問題や気候変動がもたらす影響を科学的に認識させる。更には、地域の未来を背負う子供たちを地域への啓蒙をも担う存在として育成することをねらいとする。

7.　育みたい資質や能力、態度

海洋についての確かな知見、活動態度としての主体性及び協働意欲、問題発見能力、コミュニケーション能力等の言語力、情報収集能力、分析力、表現力、学習を振り返る力

8.　単元の展開（全１０時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
3	１．学区のクリーン作戦からプラスチックゴミの問題や地球環境の劣化について考えさせる。 	教師の指導 ・子供たちを居住地域別に５地区に分ける。 ・６学年児童から班長と副班長を選出する。 ・地区毎に集団で下校しながら、清掃活動を実施。 ・翌日、プラスチックゴミが多いことを確認。 ・学級毎にプラスチックゴミ問題を学習する。 主な評価 ・意欲的に活動し、ゴミ問題を真剣に考察したか。 外部連携 ・からたけこども園、沖館子供会、唐竹子供会他
4	２、子供たちに給食の献立から「海の恵み」をピックアップさせ、私たちの生活が海洋資源に依存している事実に気づかせるとともに豊かな海洋環境を保全しようとする意欲を醸成する。 ***※　子供の作文から*** ***僕は、給食で魚や海藻をたくさん食べていて、いつもお*** ***かわりするほど大好きです。でも、この前の遠足の時、魚*** ***にも家族があり、僕は命を食べていることに気づきました。*** ***だから、魚に感謝しながら残さず食べることが大事だと思*** ***いました。それから、海にはけっこうゴミが落ちていて、どうし***	教師の指導 ・給食の献立一覧表を配布し、海産物に赤線を引かせる。（一週間毎に数を集計させる。） ・青森県の特産物であるホタテの生産過程を調べさせ、地域の生産物であるリンゴやモモとの違いを比較させる。 主な評価 ・私たちの食生活が、たくさんの海産物に依存していることを理解できたか。 ・豊かな海洋環境を保全しようとする意欲が高まったか。 外部連携 ・平川市給食センター

	て人はゴミを捨てるのだろうと悲しくなりました。捨てたゴミを 魚が食べ、その魚を僕たちが食べればゴミを食べているこ とになります。だから、私たちは皆で海や環境をきれいにし なければいけないと強く思いました。	
3	3　海洋学習の成果をまとめさせ、保護者参観日に発表させる。 	教師の指導 ・学区のクリーン作戦や浅虫海岸への訪問を通して気がついたことをまとめさせる。 ・大気中のＣＯ２の増加が気候変動や海水面の上昇をもたらし、種々の問題を引き起こしている現実に向き合わせる。 ・環境問題を解決するための方法を考察させる。 ・効果的なプレゼン方法を検討させる。 主な評価 ・海洋環境が抱える課題を捉えることができたか。 ・自分の考えを効果的に伝えることができたか。

9.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

10.　単元における位置づけ

単元　１０　時間中の　９　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

11.　本時の目標

海洋環境の保全について、自分の考えの根拠を示しながら立場を明確に伝えるとともに、様々な視点からの考えを聞き合うことにより、海洋環境に対する自分の考えを深めることができる。

12.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	・教師の指導 ◇支援 / ◎評価の視点（方法）
１　学習課題をつかむ 課題　パネルディスカッションで海洋が抱える課題を話し合い、考えを深めよう。 ＜論題＞ 豊かな海洋の環境を保全するためには、どんな対策や取組が必要か。	・気軽に意見交換できるような教室の雰囲気づくりに配慮する。
２　話合いの役割と留意点を確認する。 ＜司会者＞・手順通りに話合いを進め、まとめる。 ・論点がずれたら修正。 ＜ﾊﾟﾈﾘｽﾄ＞・根拠を示し立場を明確に発言、応答。 ＜フロア＞・メモしながら聞く。・疑問点を質問。	・発表資料やワークシートを活用し、論拠を示しながら話し合う。 ・同じグループ内で協力して質問に答えるようにする。
３　パネルディスカッションを行う。 ①パネリストが意見発表を行う。 ②パネリスト間で質問や意見を交換する。 ③フロアから質問や意見を発表する。 ④パネリストが、これまでの話合いから考えたことを含めてまとめの意見発表を行う。 ⑤司会者による全体のまとめを行う。	・根拠は、わかる範囲で示すようにさせる。 ◎論拠を明らかにしながら自分の考えを明確に伝えるとともに、様々な立場の意見を聞き合うことにより自分の考えを深めている。　思考・判断・表現 （発表・ノート・ワークシート）
まとめ　立場をはっきりさせてパネルディスカッションを行うことで、様々な意見を聞き、海洋環境に対する自分の考えを深めることができた。	◇どのパネリストのどんな考えが参考になったかを問い、それを自分の主張に付け足すようにさせる。
４　学習を振り返る。 ・各役割の留意点に沿って振り返る。 ・振り返りを書く。	・各役割の留意点に沿って振り返る。

13.　今回の活動の自己評価

山間部で生まれ育った児童がタマキビや海藻類等の生物に触れることは、海には陸とは全く趣が異なる生態系が広がっている事実に目を開かせる機会になった。その体験は魚介類を食物として口にした際、どのような環境からもたらされたのかを意識することにつながり、海洋が生活に密着した存在であることを認識させる学びに結びついたことは言うまでもない。また、人々と海洋の関わりを総合的に考察する中でＣＯ２の増加や海洋汚染の問題、海洋生態系を維持する取組の重要性に気づかせるとともに具体的行動への意欲を大きく向上させることができた。このことは、科学への憧れや有用性を子供たちへしっかりと自覚させることにも直結したのではないだろうか。加えて、子供たちの声を通して保護者や地域住民の方々へ確かな知識や情報を伝播させることが、海洋環境の大切さや環境保全等の問題について地域全体の取組を問い直すきっかけにもなったと自負するところである。

14.　今後の課題

・海洋環境の尊さや環境を持続することの重要性について、確実に次世代へ伝えるために次年度以降も本実践を確実に継続することが求められる。
・かつて、寺田寅彦氏は「天災は忘れた頃に来る」と人々を戒めた。しかし、昨今の気候変動は「忘れる間もないほどに次々と新たな自然災害が来襲する」現実をもたらしている。今回のプログラムを一つの契機として、環境保全につなげるための海洋教育を一層充実しなければならないと決意を新たにしている。

15.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

環境問題は人類の存亡をも左右する大問題である。しかし、全地球的規模で進行している環境破壊の深刻さが子供たちにはしっかりと伝わっていない。自然保護という言葉があるが、私たちの周りにいったいどれだけの保護すべき自然が残されているのかという疑問もある。したがって、現在の私たちに求められるのは、自然保護というよりむしろ、自然を再生する活動ではないか。人類は今まで海洋から様々な恵みを享受してきたが、今後は海洋へ恩返しする活動が必要だと思うわけである。加えて、自然を再生する活動は、決して短時間で結果を出せるものではない。とてつもなく長い時間、より広い範囲での取組が求められる。何世代にもわたる継続した取組が必須だからこそ、教育の果たすべき役割が大きいのだと思う。私たちの取組のような事例が日本全国ひいては世界各国に波及していくことを願ってやまない。